

平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

1. 学校概要

学校名 小樽市立高島小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

所在地 〒047-0048
北海道 小樽市 高島5-6-1

E-mail takashima-ps@otaru.ed.jp

Website _____

児童生徒数 男子 132名 女子 130名 合計 262名
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

○はじめに

本校は、平成25年6月にユネスコスクールに認可され、「人権・平和・福祉・環境」を柱に据え、祝津地区の水族館の協力を受け、豊富な自然をもとにした「ふるさと教育」を進めている。

○「つながる学習」へ

本校では、実践してきた「生活科」「総合的な学習の時間」の取組をESDの視点から、「学習がつながる」～学年がつながる 低・中・高と積み重ねる～、「社会とつながる」～地域の環境・人・産業とつながる～ことを考え、「つながる」をキーワードとして活動を進めている。

1 人権の学習

- ① 児童会による「みんなが楽しく明るい学校づくり」活動



「あいさつ運動」

- ② 各種募金活動

- ③ エコキャップ、プルタブの収集



「みんなを笑顔にする運動」

2 福祉の学習

- ① 校区内の介護施設への訪問・高齢者との交流（2・5年）

- ② 車いす・高齢者疑似体験（5・6年）

3 ふるさとの学習

- ① 校区内の水族館を訪問し、地域の産業を支える人たちについて学ぶ
(低学年)

- ② 地域の漁港に行き、漁師さんを講師に、地域の産業（シャコ漁）について体験し学ぶ（3年）

- ③ 近隣校にある太陽光発電システムを見学し、環境について学ぶ（4年）

- ④ 地域の方々や博物館の協力による地域を知る学習の取組（4年）

4 ICTを活用した、児童のコミュニケーション能力の向上

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

小樽市立高島小学校の取組

本校の概要

本校は明治17年に開校し、平成25年度に開校130周年を迎えた。同時に校区が隣接する祝津小学校と統合し、「新」高島小学校としてスタートした。かつては鯉漁場として栄えた祝津・高島地区、新興住宅地へ変貌しつつある赤岩・かもめが丘地区といった様々な地域が校区である。今年度は、特別支援学級を含む14学級、全校児童262名（1月31日現在）の学校である。

平成25年6月にユネスコスクールに認可され、「人権・平和・福祉・環境」を柱に据え、祝津地区の水族館の協力を受け、豊富な自然をもとにした「ふるさと教育」を進めている。

「つながる学習」へ

本校では、実践してきた「生活科」「総合的な学習の時間」の取組をESDの視点から、「学習がつながる」～学年がつながる 低・中・高と積み重ねる～、「社会とつながる」～地域の環境・人・産業とつながる～ことを考え、「つながる」をキーワードとして活動を進めている。

今年度は、学習を低・中・高と積み重ねる～学年がつながる～取組として、全学年がつながる学習で学んだことを、他学年に発表したり体験させたりする場を設定した。



「人権学習の
つながる」

児童会が中心となって「学校を笑顔にする運動」を進め、引き続き「挨拶運動」を展開した。また、プルタブ・エコキャップ収集や各種募金運動も行った。特にプルタブ・エコキャップ収集は、地域の人々や企業の皆様の協力を得て、継続的な活動としてつないだ。



「福祉学習の
つながる」

以前から行われてきた地域の高齢者介護施設への訪問だが、指導計画を整理し、今年度は2・5年生が「総合的な学習の時間」で行ってきた。

本校に近い高齢者介護施設「つなぐ」に訪問し、歌を披露したり、昔の遊びで入所しているお年寄りと交流した。短い時間であったが、とても喜んでいただいた。また、福祉体験として、5・6年生で「車いす・高齢者擬似体験」、5年生で上記介護施設の見学を実施した。これらの活動は、「他者を理解し、思いやる心の育成」につながり、地域とつながることもできた。

福祉体験としては、5・6年生で「高齢者擬似体験」、6年生で「車いす体験」を実施した。



「ふるさと学習の
つながる」

本校は、統合により広がった校区を生かした「ふるさと学習」を推進している。各学年が、社会科・理科・生活科・総合的な学習の時間などで地域素材を活用しながら校区の自然や歴史を学んできた。そこから、地域の環境について考える機会につなげてきた。

【1・2年生：生活科】

校区内にある水族館を訪れ、海の生き物に触れたり、水族館で働いている人々の様子を知り、地域との関わりや親しみを持った。



【3年生：社会科】

地域の産業であるシャコ漁を漁師さん（全員が本校の保護者）から教えていただき、シャコを網から外す作業などを体験してきた。

【4年生：理科】

近隣校にある太陽光発電システムを見学し、システム施工業者の方から、太陽光発電のしくみや環境との関わりについて学んだ。



【4年生：総合的な学習の時間】

児童それぞれが研究しているテーマに合わせて、ワークショップ形式で地域の歴史や自然に詳しい方々や博物館の方々からお話を伺った。

地域素材を活用したふるさと学習などでは、教師や児童がより分

<p>I C T 機器を活用した授業の推進</p>	<p>かりやすく伝えるために、実物投影機や大型テレビなどの I C T 機器の効果的な活用を進めている。</p> <p>今年度は全学級・全特別教室に実物投影機と大型テレビが配置されたことを機会に、1月に「いつでも！ どこでも！ Let' s ICT」と題して、全学級、I C Tを活用した授業の公開を実施した。参加者には、分かりやすい授業を構築する上で、I C T機器は効果的であるという思いや、機器常設の有効性を感じていただいた。</p> <p>今後は、学んだことを効果的に発表するために、また、コミュニケーションの手段の一つとして児童が積極的に機器を活用し、本校のE S D活動を広く発信していきたい。</p>
<p>成果と課題</p>	<p>今年度は特に「地域とつながる」ことを中心に取り組んできた。地域の人材や教材を発掘し活用することで、今後の取組への足掛かりを作ることをしてきた。そして何よりも、児童に身近な教材の活用は、今後改訂される学習指導要領が目指す「自主的で対話的な深い学び」につながると考えたからである。児童が、地域を再発見し、興味を持ち始めたことは大きな成果であった。今後は国際理解教育や環境教育の面で、地区ユネスコからの積極的な情報提供や支援に期待したいところである。</p>

